令和5年度　第1学年　社会科　歴史的分野　年間指導計画

担当:町田　明良

学期	項目 （◎ 学習課題）	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①＝知識・技能　②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
第1部　歴史のとらえ方と調べ方				
第1節　歴史の流れと時代区分		**＜第1部第1節のねらい＞** ①中学校の歴史学習の導入として，小学校で学習した内容をもとに課題を追究したり解決したりする活動を通して，年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させ，資料から歴史に関わる情報を読み取ったり，年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。 ②小学校での学習を踏まえて，歴史上の人物や文化財，出来事などと時代区分の関わりなどについて考察し表現させる。		**＜第1部第1節の評価規準＞** ①年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ①資料から歴史に関わる情報を読み取ったり，年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ②時期や年代，推移，現在の私たちとのつながりなどに着目して，歴史上の人物や文化財，出来事などから適切なものを取り上げ，時代区分との関わりなどについて考察し表現している。 ③過去を継承しつつ，現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	**歴史をたどろう** **◎この絵は何だろう？**	絵を活用して，小学校で学んだ内容を取り上げ，歴史を大きく変えた人物や出来事を考察し，時代を区分することの意味や意義を理解する。	・４人程度のグループで活動させる。 ・政治にかかわる人物の特徴（貴族，武士など）や友好・対立など外国との関係に関わる出来事に着目させ，年表に整理したものをもとに時代の転換点をいくつか挙げさせる。	①資料（絵）から歴史に関わる情報を適切に読み取ったり，年表などにまとめたりしている。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ，時代区分との関わりについて考察し表現している。
	１ 年代の表し方と時代区分 **◎年代の表し方や時代区分にはどんな種類があるのだろうか。**	西暦，世紀，元号の意味と使い方を理解する。 政治の中心地による時代区分や文化の特徴から名付けられた時代区分があることを理解する。	・「徳川家康はいつ活躍した人物か」などの具体的なできごとに関する問いの答えを，西暦，世紀，元号，時代区分などを使って表現させる。 ・「歴史をたどろう」（p.1）の道の上に，時代区分を書き込ませてもよい。	①歴史上の出来事について，西暦，世紀，元号，時代区分などを使って「いつ起こったか」を適切に説明している。また，古代，中世，近世，近代，現代が，〇〇時代といった時代区分のどの時代と対応するのかを理解し，その知識を身につけ，歴史上の人物が生きた時代区分を適切に説明している。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ，時代区分との関わりについて考察し，「歴史をたどろう」の道の上に，適切に時代区分を書き込んでいる。
第2節　歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた		**＜第1部第2節のねらい＞** ①身近な地域のなかで受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって，具体的なことがらとのかかわりのなかで地域の歴史を調べたり，収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。 ②博物館や郷土資料館などの利用や地域の人々の協力も考慮し，地域に残る文化財や諸資料を活用して，身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し，表現させる。		**＜第1部第2節の評価規準＞** ①自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって，具体的なことがらとの関わりの中で，地域の歴史について調べたり，収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ②比較や関連，時代的な背景や地域的な環境，歴史と私たちとのつながりなどに着目して，地域に残る文化財や諸資料を活用して，身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心をもち，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
時期不定期	**１　歴史の謎を探る～問いを作ろう～**	地域の歴史にふれ，調べてみたいことがらを探し，班で話し合うなどしてから調べる課題を決定する。	・実際に見学し，直接関係者やさまざまな方々から話を聞くことができる場を工夫し，地域の歴史を事前に確かめておく。 ・新旧の地形図の比較をもとにテーマを決めさせる場合は，地域に出て調べられるものがあることを前提とする。	①身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心をもち，小学校などで学んだ地域の人物，身近な人の話や言い伝え，地域の気になる建物・風景，遺跡・遺物，行事・風習などから，話し合いをもとに調べるテーマを適切に決めている。 ①図書館，博物館・資料館，インターネットなどから適切に情報を集める技能を身に付けている。
	２　資料をよく見てヒントを探そう	教科書や地域の副読本など，身近な資料から基本的な情報を集め，調べる視点を明確にして，いくつかの予想（仮説）を立てる。ルートマップなどの地図を用意し，マナーを守りながら野外調査や聞き取り調査を行って，情報を収集し，整理する。	・地域の図書館や博物館，インターネットなども積極的に利用させる。 ・予想（仮説）を立てるときには，日本の歴史の大きな流れとのかかわりやその由来に注目させる。 ・事実として確認できたことと確認できなかったことや，事実と自分の考えをしっかりと区別するように指導する。	①適切な地図の作り方・年表の作り方，野外・聞き取り調査のしかたを身に付けている。 ①身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統や文化に関するさまざまな資料を収集し，予想に関連のある情報を適切に読み取ったり，事実と事実でないことを区別するなど記録を適切に整理したりしている。 ②野外調査や聞き取り調査を通して，分からなかったことや新たな疑問などを日本の歴史の大きな流れと結びつけて考察し，自分の予想を根拠をもとに適切に表現している。
	３　謎解きの答えを分かりやすくまとめよう	調べたり考えたりしたことを整理し，まとめの報告書（レポート）を作成する。 調べたことを発表し，意見交換を行ったのち，調査全体をふりかえり，改善できる点や工夫できる点を探して，今後の調査活動に生かせるようにする。	・模造紙やコンピュータなどを使ったプレゼンテーション，グループディスカッション，パネルディスカッションなど，テーマや内容に応じて適切な方法で発表や意見交換を行わせる。 ・ほかの人の意見や観点を共有することで，より学習を深めることができることを実感させる。	①適切なレポートのまとめ方，発表のしかたを身に付けている。 ①調査を通してわかったことがらを適切な項目を立てて整理し，根拠となる資料を年表，地図，写真・イラスト，関係図・流れ図などを用いて表現している。
第2部　歴史の大きな流れと時代の移り変わり				

第1章　古代　古代国家の成立と東アジア ■章の問い■　古代の国が成立するために重要なことは何か。		**＜第2部第1章のねらい＞** ①世界の古代文明や宗教のおこりを基に，世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰，大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に，東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。 ①律令国家の確立に至るまでの過程，摂関政治などを基に，東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。 ①仏教の伝来とその影響，仮名文字の成立などを基に，国際的な要素をもった文化が栄え，それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境，農耕の広まりや生産技術の発展，東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②古代までの日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ③古代までの日本について，よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究させる。		**＜第2部第1章の評価規準＞** ①世界の古代文明や宗教のおこりを基に，世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰，大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に，東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ①律令国家の確立に至るまでの過程，摂関政治などを基に，東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ①仏教の伝来とその影響，仮名文字の成立などを基に，国際的な要素をもった文化が栄え，それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境，農耕の広まりや生産技術の発展，東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②古代までの日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③古代までの日本について，よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第1節　人類の登場から文明の発生へ ◇節の問い◇　世界各地の文明は，どのように成立し，発展したのだろうか。		＜「世界の古代文明や宗教のおこり」を扱うこの単元のねらい＞ ○古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して文明や宗教の特徴を比較して考察し，世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に築いた諸文明には，生活技術の発達，文字の使用，国家のおこりと発展，都市や巨大建造物，身分の分化などの共通する特徴があることに気付かせる。 ○ギリシャ・ローマ文明の政治制度について，現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解させる。		＜「世界の古代文明や宗教のおこり」を扱うこの単元の評価規準＞ ①世界の古代文明や宗教のおこりをもとに，世界の各地で文明が築かれたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境に着目して，文明や宗教の特徴を比較して考察し，共通点に気付くなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③世界の古代文明や宗教のおこりについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	**1 人類がたどった進化** ◎人類は，進化の過程で，どのように生活を変化させてきたのだろうか。	環境の変化とともに，人類はどのように進化してきたのかを，文章や資料から読み取り，表または図にまとめる。	・人類が，厳しい環境を生きぬくなかで，知恵や工夫をつちかってきたことを，道具の種類や用途をふまえながら実感させる。	①猿と人類（猿人・原人・新人）の違いについて，表または図に適切にまとめ，理解している。 ①旧石器時代には，日本列島が大陸と陸続きであったこと，現在の日本列島でも当時人類が生活していたことを理解している。 ②旧石器時代と新石器時代の石器の違いや土器が作られるようになったことなどをもとに，環境の変化に合わせて人類の生活がどのように変化したかを考察し，適切に表現している。
1年1学期	**2 世界各地で生まれる文明** ◎古代文明はどのような特徴を持っていたのだろうか。	文明はどのような地域で誕生し，またその地域ではどのようなものが生まれたのかを，文章や地図資料から読み取り，表にまとめる。	・メソポタミア文明，エジプト文明，インダス文明，中国文明を農耕や文字，青銅器や建造物中心にまとめさせ，世界の古代文明に共通していることがらに気付かせる。	①世界の古代文明について，成立した時期，文明が生まれた地域，その地域で生まれたものを表で適切にまとめ，理解している。 ②古代文明が誕生した地域と古代文明に共通する特徴を考察し，都市のおこり，金属器や文字の使用などの特徴について適切に表現している。
1年1学期	**3 東アジアの文明の広がり** ◎古代の中国は，どのように統一されていったのだろうか。	中国に登場した秦や漢ではどのような政治が行われたのか，文章や資料から読み取る。	・秦の始皇帝の政治の特色，漢と周辺諸国との関係，シルクロードの役割，儒教と仏教の違いなどに気付かせる。	①漢の時代の中国と周辺諸国との関係について，「朝貢」という言葉が意味することを中心に理解している。 ②紀元前３世紀に中国を統一した秦の始皇帝の権力の強さについて考察し，政治のしくみ，兵馬俑坑や万里の長城のような具体的な事例による根拠にもとづいて適切に表現している。
1年1学期	**4 ギリシャとローマの政治と文明** ◎古代のギリシャとローマではどのような政治が展開されたのだろうか。	ギリシャとローマではどのような政治が行われたのか，文章や資料から読み取り，現代の民主政治と異なる点を考える。	・古代ギリシャで民主政が発達したことによって生まれた文化の特徴にも着目させる。 ・民主政や共和政が生まれた背景として，市民が国家の防衛や戦争をする上で重要な役割を担っていたという共通点にも気付かせる。	①ギリシャのアテネで行われた民会に参加している人々が成人の男子であることや，ローマ帝国がアジアとの交易を活発に行っていたことを資料から適切に読み取り，理解している。 ②古代ギリシャの民主政や古代ローマの共和政の共通点，現代の民主政治と異なる点とは何かを考察し，政治の権利を持つ人や労働を担う奴隷などに着目して，適切に表現している。
1年1学期	**5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生** ◎仏教・キリスト教・イスラム教はどのようにおこり，広まったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 古代の四つの文明が誕生し発展するうえで共通する特徴は何か，説明しよう。	世界的な規模で信仰されている宗教は，どのように生まれ，広まっていったのか，文章や地図から読み取る。 ◇各文明が成立したときに出来たものを確認させる。	・各宗教が生まれた背景や広まっていく理由には，共通点があることに気付かせる。 ・文明がおこった地域と古代の文明地域と重なることに気付かせ，それがなぜかを文章から読み取らせる。 ◇文明によって生まれた政治や文化が発展していった国家と宗教との関係に着目して考えさせる。	①仏教，キリスト教，イスラム教が生まれた時期と場所，広まりのようす，シャカ，イエス，ムハンマドが説いたことなどを文章や地図，資料などから適切に読み取り，理解している。 ②古代文明と宗教の関係について地図や資料をもとに考察し，仏教，キリスト教，イスラム教などのおこった地域が，それぞれインドや西アジアなどの世界の古代文明地域と重なり，差別や貧富の差が宗教の誕生する背景として共通していることを適切に表現している。
第2節　東アジアの中の倭（日本） ◇節の問い◇　日本列島には，どのようにクニが出来て，勢力を広げたのだろうか。		＜「日本列島における国家形成」を扱うこの単元のねらい＞ ○日本列島において狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや，自然崇拝や農耕儀礼などにもとづく信仰が後の時代にもつながっていることに気付かせる。 ○古墳の大きさやその分布をもとに，ヤマト王権の勢力の広がりを大きくとらえさせ，東アジアとのかかわりについては，大陸から移住してきた人々のわが国の社会や文化に果たした役割に気付かせる。		**＜「日本列島における国家形成」を扱うこの単元の評価規準＞** ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰，大和政権による統一の様子と東アジアとのかかわりなどをもとに，東アジアの文明の影響を受けながらわが国で国家が形成されていったことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②農耕の広まりや生産技術の発展に着目して，農耕の広まりが生活や社会に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③日本列島における国家形成について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

1年1学期	**タイムトラベル①** **縄文時代を眺めてみよう** 紀元前25～前20世紀ごろのある場面 **タイムトラベル②** **弥生時代を眺めてみよう** 紀元2～3世紀ごろのある場面	縄文時代と弥生時代の集落をえがいた想像図を比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があるかを読み取り，各時代の特色を考え，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに，社会が大きく変化したことに気付かせ，「なぜ争いが起こっているのか」などの追究課題を考えさせる。 ※各項目で学んだことがこのイラストに示されているかどうか，適宜ふりかえりをさせたり，学習のまとめとして時代の特色を説明するための内容を確認させたりする目的でもタイムトラベルのページを活用する。	①小学校の学習をふまえて，縄文時代と弥生時代の違いについて，道具や建物，作物などに着目し，適切なことがらを読み取っている。 ②人々がたて穴住居に住んでいること，土器をつくって利用していること，稲作の伝来などによって社会が変化し，争いが始まってクニ（国）が現れたりするなど，縄文時代と弥生時代の共通点や相違点を考察し，時代背景などをふまえて適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(22時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ①弥生時代と奈良時代の宗教の違いに着目して，変化があった時期を年表中から適切に選んでいる。 ②『タイムトラベル③』も参考にしながら，想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとに，原始・古代の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年1学期	**1 縄文から弥生への変化** ◎縄文・弥生時代の日本列島の人々の生活には，どのような特徴があったのだろうか。	縄文時代から弥生時代にかけて，人々の生活はどのように変化したのか，稲作とかかわらせて考える。	・自然環境（気候）や大陸とのかかわりの変化によって，生活が変わり時代が移っていくことに気付かせる。 ・『タイムトラベル①・②』を活用するほか，石器，土器，金属器のレプリカや写真など，できる限り視覚に訴える資料を提示する。	①稲作が始まり，米の保存・煮たきに適した弥生土器，稲をたくわえるための高床倉庫，豊作を神に祈る道具として青銅器がつくられ利用されるようになったことなど，弥生時代に人々の生活がどのように変わったか，具体的な事例をもとにして理解している。 ②気候が暖かくなり，森林が広がったこと，稲作が伝わり西日本から東日本に広がるなどの環境の変化に合わせて，生活がどのように変化したかを資料をもとに考察し，適切に表現している。
1年1学期	**2 ムラがまとまりクニへ** ◎日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。	日本列島の各地にあった国々はどのようにしてまとまっていったのか，中国の歴史書が伝えていることなどをもとに考える。	・吉野ヶ里遺跡や復元模型，中国の歴史書の記述をもとに考えさせる。 ・ヒスイや貝製の腕輪が見つかった遺跡から，日本列島各地が交易で結びついていたこと，北海道や南西諸島では狩りや漁を中心とした生活が続いていたことに気付かせる。	①『漢書』，『後漢書』，「魏志」倭人伝に書かれた倭（日本）のようすから，紀元前１世紀ごろには100余りの国に分かれていたこと，１世紀の半ばに奴国の王が漢に使いを送り，金印を与えられたこと，３世紀には邪馬台国の女王卑弥呼が30余りの国を治め，中国に使いを送って倭王の称号と金印，銅鏡を得ていたことなどを適切に読み取り，理解している。 ②弥生時代には土地や水の利用をめぐる争いがあったことを，佐賀県の吉野ヶ里遺跡で発掘された大きな集落のあとや，人骨などのような具体的な事例をもとに考察し，根拠にもとづいて適切に表現している。
1年1学期	**3 鉄から見えるヤマト王権** ◎ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本列島において，クニができ，勢力を広げていくのに重要だったことは何か，説明しよう。 **歴史を探ろう** 古墳から分かる当時の様子	ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのか，鉄や前方後円墳が各地に広まった理由をもとに考える。 ◇ムラからクニ，さらにヤマト王権へとまとまる過程を確認させる。	・当時の日本列島で鉄が貴重だった理由（農業や軍事面）を考えさせる。 ・ヤマト王権は豪族たちにただ鉄や技術を与えただけではなく，兵士の動員などを義務づけていたことに気付かせる。 ◇中国や朝鮮半島から伝わったさまざまなものに着目して考えさせる。	①渡来人が伝えたさまざまな技術について，土器を高温で焼く技術が伝わり，これまでよりも丈夫な須恵器が生産されるようになったことなど，具体的なことがらを理解している。 ②ヤマト王権の勢力拡大に鉄が果たしていた役割を考察し，各地の豪族が，鉄の豊富な朝鮮半島とのつながりがあるヤマト王権と結びつきを強めようとした理由などを，根拠をもって適切に表現している。
第3節　中国にならった国家づくり ◇節の問い◇　日本の古代国家は，どのような国づくりを行ったのだろうか。		＜「律令国家の形成」「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元のねらい＞ ○聖徳太子の政治，大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を大きくとらえさせ，大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解させる。 ○大陸からもたらされた仏教が，わが国の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気付かせ，国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解させる。		**＜「律令国家の形成」「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元の評価規準＞** ①律令国家の確立に至るまでの過程をもとに，東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ，その後，天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して，東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③律令国家の形成について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	**タイムトラベル③** **奈良時代を眺めてみよう** 8世紀ごろのある場面	縄文時代や弥生時代の集落などと奈良時代の国分寺建設のようすをえがいた想像図を比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があるのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他，役人や僧侶と民衆の格差が分かるもの（住宅や服装），古墳の土などが寺院建設に利用されていることに気付かせる。 ・「僧侶と役人（政治）の関係はどのようなものだったのか」「荷物を運んでいる農民は，どこから来て，どこへ向かっているのか」などの追究課題が考えられる。	①小学校の学習をふまえて，縄文時代・弥生時代と奈良時代の違いについて，建物や人々の服装，人々が果たしている役割の違いなどに注目し，仏教伝来後の寺院建設など，適切なことがらを読み取っている。 ②建設されている国分寺の近隣の農民がたて穴住居に住んでいること，かつての権力の象徴だった古墳が，奈良時代に重要な役割を果たす仏教寺院の建設に利用されていることなど，縄文・弥生時代と奈良時代の共通点や相違点を考察し，時代背景などをふまえて適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(22時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ①弥生時代と奈良時代の宗教の違いに着目して，変化があった時期を年表中から適切に選んでいる。 ②『タイムトラベル①，②』も参考にしながら，想像図にえがれているさまざまなことがらをもとにして，古代までの時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年1学期	**1 ヤマト王権と仏教伝来** ◎蘇我氏や聖徳太子は，国づくりのためにどのような改革を行ったのだろうか。	蘇我氏や聖徳太子は，どのような国をつくろうとしたのか，蘇我氏と聖徳太子が協力して行った政策などをもとに考える。	・地図を用いて，当時の東アジア諸国間に緊張が高まっていたことを確認する。 ・新しい国づくりを進めていく上で，隋との間にどのような関係が必要で，そのためにどのような政策を実施したのかを考えさせる。	①蘇我氏と聖徳太子が協力して行った政策，隋との結びつきが必要だった理由，仏教が果たした役割を理解している。 ①当時は女性天皇が多く生まれていることなど，系図を適切に読み取る技能を身につけている。 ②仏教を取り入れた理由や遣隋使を派遣した目的を考察し，それぞれの影響についても適切に表現している。
1年1学期	**2 律令国家を目指して** ◎東アジア諸国との関係のなかで，倭国(日本)はどのような改革を進めたのだろうか。	東アジア諸国との関係のなかで，倭（日本）はどのような改革を進めたのか，天智天皇と天武天皇が行った政策などを文章や資料から読み取ってまとめる。	・この時期に元号や正式な国名が定められたことに気付かせる。 ・唐にならって新しく日本の政治に取り入れられたものを，文章から読み取らせる。 ・政治のしくみ図は，上部に位置するほど政治の実権をにぎっていることを確認する。	①大宝律令によって生まれた，天皇を頂点とし，太政官が政策を決め，その下の八つの省が実施にあたる中央政府（朝廷）のしくみや，地方を国・郡・里に分け，中央から派遣された国司が，郡司や里長に任命された地方豪族を監督する地方のしくみなどを，本文や図などから適切に読み取り，理解している。 ①唐にならった国づくりをめざす過程で初めてつくられた戸籍や律令，本格的な都によって，天皇を中心とする国のしくみができたことを理解している。 ②中国と朝鮮半島の情勢が日本の動きにどのような影響を与えたかを考察し，日本に逃れた百済の人々や遣唐使が果たした役割について適切に表現している。
1年1学期	**3 律令国家での暮らし** ◎奈良時代の土地と税の制度にはどのような特徴があったのだろうか。	奈良時代の土地制度，税制度は人々の生活にどのような影響を与えたのか，資料などをもとに考える。	・農民にとっての税や兵役，労役がどれほど重かったのか，資料などから読み取らせる。 ・重い負担から逃れるために，どのような行動をとる農民たちがいたのか，文章から読み取らせる。	①戸籍の性別や年齢を偽ることで農民の負担が軽くなる理由を，班田収授法の内容をもとに理解している。 ②班田収授法と墾田永年私財法が定められた理由を，それぞれ具体的な制度上の目的を中心に考察して，適切に表現している。

1年1学期	**4 大陸の影響を受けた天平文化** ◎奈良時代にはどのような特徴を持った文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の古代国家が目指した国とは，どのようなものであったか説明しよう。	奈良時代にはどのような特色をもった文化が展開したのか，大陸の影響と文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇飛鳥時代，奈良時代に行われた政策を確認させる。	・地図を活用し，当時の唐がシルクロードを通してイスラム勢力などと交流をもっていたこと，東大寺正倉院に伝わる五絃琵琶などがそのことを物語っていることを確認させる。 ◇唐から学んだ進んだしくみや文化に着目して考えさせる。	①唐を中心とした国際関係などをもとに，国際的な文化が栄えた背景や，『古事記』や『日本書紀』，『風土記』がつくられた理由を理解している。 ①聖武天皇が仏教を支持し，大仏や国分寺と国分尼寺を造らせた理由，仏教文化が広まっていった理由を理解している。
第4節　展開する天皇・貴族の政治 ◇節の問い◇　これまでに中国から取り入れた制度や文化は，どのように展開したのだろうか。		＜「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元のねらい＞ ○摂関政治をもとに平安京における貴族の政治の特色をとらえさせる。 ○東アジアの情勢の変化によって，わが国でも政治と文化において独自の動きが見られるようになったことに気付かせる。 ○日本独自のかな文字が発明され，それを使った文学作品が書かれたことなどに気付かせ，文化の国風化が進んだことを理解させる。		**＜「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元の評価規準＞** ①摂関政治をもとに，天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して，東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③古代の文化と東アジアとの関わりについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	**タイムトラベル④** **平安時代を眺めてみよう** 11～12世紀ごろのある場面 ◎奈良時代と比べると，どのような点が変化し，どのような共通点があるだろうか。	平安時代（平安京）における人々や貴族の生活の様子をえがいた想像図を見て，奈良時代（平城京）と比べてどのような点が変化し，どのような共通点があるのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他，貴族と民衆の格差が分かるもの（住宅や服装），季節が分かるもの（貴族の庭園などの桜），寺院がどこにあるか（塔を見つける）に気付かせてもよい。 ・「貴族の屋敷に運ばれる品物はどこから来るのか」「貴族の邸宅の築地塀が壊れたままになっているのはなぜか」「僧侶はどんな教えを説いているのか」などの追究課題が考えられる。	①小学校の学習をふまえて，貴族の服装や寝殿造など，日本風の文化が描かれていることなど，適切なことがらを読み取っている。 ②碁盤目状の道路という平城京や平安京などの都に共通する特色，日本風で色彩が豊かになっている貴族などの服装の変化など，奈良時代と平安時代の共通点や相違点を考察し，写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(22時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ②『タイムトラベル①，②，③』も参考にしながら，想像図にえがれているさまざまなことがらをもとにして，古代の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年1学期	**1 権力を握った貴族たち** ◎平安京では，どのような政治が行われたのだろうか。	平安京に都を移したのち，朝廷の政治にどのような変化が見られるようになり，なぜ藤原氏が政治の実権を握ることができたのか，文章や系図などをもとに考える。	・主権者教育の観点から，平安時代の政治のよい面（法律の整備）や問題点（形式ばかりが重んじられることなど）を指摘させてもよい。 ・東アジア（中国）における情勢の変化が，日本の政治に影響を与えた（遣唐使の派遣を停止）ことに気付かせる。	①桓武天皇が平安京に都を移した理由，平安時代に幼い天皇が即位しても問題がなかった理由，地方の政治が乱れていった背景について理解している。 ②藤原氏が政治の実権をにぎり続けることができた理由を考察し，系図などの資料をもとに適切に表現している。
1年1学期	**2 唐風から日本風へ変わる文化** ◎平安時代にはどのような特色をもった文化が生まれたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 政治，文化，外国との関わりに着目して，奈良時代と比べて平安時代がどのように変わったか説明してみよう。	平安時代にはどのような特色をもった新しい文学や仏教が展開したのか，文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇奈良時代の天平文化との違いに注目させる。	・菅原道真の提案による遣唐使派遣の停止後も，唐の滅亡後に中国を統一した宋の商人や，宋に渡った僧侶の活動によって，引き続き中国の文物がもたらされたことを説明しておく。 ◇「梅」から「桜」への変化などに着目して考えさせる。	①奈良時代と比べた平安時代の政治や文化，外国との関わりの特色を理解している。 ①絵巻物の絵の場面には，空間の変化だけでなく，時間の流れを表すものもあること，当時の暮らしぶりや建物の構造が読み取れることがわかっており，絵巻物を読み取る技能を身に付けている。 ②国風文化や新しい仏教の特色について，天平文化や奈良時代の仏教との比較をもとに考察し，代表的な文学作品などの例をあげながら適切に表現している。
1年1学期	**章の学習を振り返ろう** 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■古代の国が成立するために重要なことは何か。	古代の日本で国が成立するための共通点や必要なことを考え，最も重要なものを選び，その理由とともに発表し合う。 古代とはどのような時代か，自分の言葉で表現したり，意見交換を行ったりする。	他の時代と比較することはできないが，中国などとの関係に目を向けさせ，国の成立過程で外国から取り入れたものは何かがヒントとなる。 意見交換の後は，必ず自分の考えを補足する理由や視点を自分が考えたことに取り入れさせるようにする。 古代とはどのような時代か，まずは短い言葉で特色を表現させ，歴史的な見方・考え方（時代や年代，推移，比較，相互の関連）を働かせて，そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り，歴史的な見方・考え方を働かせて，国が成立するために重要なことを効果的にまとめている。 ②国が成立するために必要な条件に着目するなどして，古代という時代を大観し，時代の特色を多面的・多角的に考察し，適切に表現している。 ③古代の国づくりについて，現代の国家のあり方と比較するなどして，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章　中世　武家政権の成長と東アジア ■章の問い■　人々がそれぞれに結び付きを強めていった目的は何か。		**＜第2部第2章のねらい＞** ①鎌倉幕府の成立，元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に，武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったこと，元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。 ①南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。 ①農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。 ②武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②中世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ③中世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。		**＜第2部第2章の評価規準＞** ①鎌倉幕府の成立，元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に，武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったこと，元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ①南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ①農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 ②武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②中世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③中世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第1節　武士の世の始まり ◇節の問い◇　武家政権はどのように誕生し，どのような政治を行ったのだろうか。		＜「武家政治の成立とユーラシアの交流」を扱うこの単元のねらい＞ ○武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が広まったことを理解させる。 ○武家政治の特徴を考察し，天皇や貴族の政治との違いという観点から，古代から中世への転換の様子に気付かせる。		**＜「武家政治の成立とユーラシアの交流」を扱うこの単元の評価規準＞** ①鎌倉幕府の成立などをもとに，武士が台頭して，主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②武士の政治への進出と展開や貴族の政治との違いに着目して，武家政治の特徴を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代から中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③武家政治の成立とユーラシアの交流について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

1年1学期	**タイムトラベル⑤** **鎌倉時代を眺めてみよう** 13～14世紀ごろのある場面	鎌倉時代の農村のようすをえがいた想像図を見て，平安時代と比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があったのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他，武士の屋敷の周辺の様子に注目させ，平安時代の貴族の屋敷との共通点（農地に囲まれていること）にも気付かせる。 ・「武士の屋敷に運ばれる品物はどこから来るのか」「武士の屋敷で子どもが読んでいる本はどんな内容なのか」「僧侶はどんな教えを説いているのか」「神社をつくったのはだれか」などの追究課題が考えられる。	①小学校の学習をふまえて，武士の屋敷の特徴や弓などの武器が描かれていることなど，平安時代との違いについて，適切なことがらを読み取っている。 ②武士と貴族の屋敷の周辺に農地が広がっていること，牛が人や荷物を運んでいること，武士の屋敷には物見やぐらがあり，周りが堀で囲まれていること，農村にも市が見られることなど，平安時代と鎌倉時代の共通点や相違点を考察し，時代背景などをふまえて適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(37時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ②『タイムトラベル⑥』なども参考にしながら，想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして，中世の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年1学期	**1 各地で生まれる武士団** **◎武士はどのようにして力をつけていったのだろうか。**	武士はどのようにして現れ，都や地方でどのような役割を果たし，どのように成長していったのかを，文章や資料などから読み取る。	・土地の私有が基礎となる社会では，その権利や境界などをめぐる争いが起こりやすくなるが，地方では警察や裁判のしくみが整っていなかったことが，武士の成長や僧侶が武装する背景となっていたことに気付かせる。	①天皇の子孫でもある源氏や平氏が，各地の武士団を広くまとめ，武士の統率者（棟梁）となっていったことを理解している。 ②人々が武装してみずからの力で紛争を解決しようとする社会が形成された経緯をふまえ，武士が現れて成長していった過程を考察し，都と地方の武士が果たした役割をもとに，適切に表現している。
	2 朝廷と結び付く武士 **◎武士はなぜ政治の実権を握ることができたのだろうか。**	平氏はどのような出来事をきっかけにして実権をにぎり，どのような政治を行い，なぜ滅ぼされたのか，予想を立てたり，文章や資料などから読み取ったりする。	・戦乱に勝った平清盛が，政治の実権を維持する上で，貴族（藤原氏）と同じような方法をとったこと，貿易の利益に目を向けたことに気付かせ，「長く続く武家政権」にならなかった理由を考えさせる。	①源氏と平氏が大きな力をもつようになった背景（荘園の権利や境界をめぐる紛争の解決など）や平清盛が政治の実権を握るきっかけとなった出来事（保元の乱と平治の乱に勝利したこと），平氏政権の経済的な基盤が何であるか（日宋貿易）を理解している。 ②武士として初めて政治の権力を握った平清盛がそれを維持しようとしてとった行動の意味を考察し，具体的な事実をふまえながら適切に表現している。
	3 鎌倉を中心とした武家政権 **◎鎌倉を中心とした武士政権は，どのような特徴を持っていたのだろうか。**	鎌倉を中心とした武家政権は，どのような特徴をもっていたのか，御家人の視点から考えたり，まとめたりする。	・御成敗式目の一部を読ませて，御家人にとって都合がよい慣例があることや，律令とは異なる女性の権利があったことに気付かせる。	①小学校の学習をふまえ，主従関係のしくみを本文から読み取り，図などを用いて適切にまとめ，理解している。 ①資料をもとにして，承久の乱の勝利をきっかけに，鎌倉幕府と東国の武士による支配が西国にも及ぶようになったことを理解している。 ②御家人にとって，地頭に任じられることが大切だった理由（荘園や公領の支配が可能となる）を考察し，主従関係などをもとにして，適切に表現している。 ②北条氏が執権として御家人をまとめ，長く幕府を運営することができた理由を考察し，源氏との関係や承久の乱の勝利などをもとにして，適切に表現している。
1年1学期	**4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化** **◎鎌倉時代には，どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。** **◇節の問いを振り返ろう◇** **武家政権のしくみの特徴とは何か，「領地」「御家人」という言葉を使って説明してみよう。**	鎌倉時代にはどのような特色をもった文化が展開したのか，武家の政治や新しい仏教の動きに着目させ，文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇武士が土地を守るためにどのような関係を築いたかを確認させる。	・平安時代までの仏教と鎌倉時代のさまざまな仏教の違いを考えさせる。 ・奈良時代や平安時代から続く伝統的な仏教も根強く信仰されていたことにも着目させ，その理由を予想させる。 ◇武士が土地を守るためにどのような関係を築いたか，将軍，御家人，御恩，奉公，領地，主従関係という重要なキーワードに着目して考えさせる。	①新たな政治の支配者となった武士の気風にあった鎌倉時代の文化の特色を，具体的な文化財とその特徴をもとにして理解している。 ①鎌倉時代の新しい仏教について，開いた人とその教え，どのような人々に受け入れられたかを読み取り，表を用いて適切にまとめ，理解している。 ②鎌倉で禅宗の影響が強まった理由を考察し，武士に受け入れられた背景や幕府による保護などにふれながら，適切に表現している。
第2節　武家政権の内と外 **◇節の問い◇** **ユーラシア大陸からの影響によって，日本にどのような変化が起こったのだろうか。**		＜「武家政治の展開と東アジアの動き」を扱うこの単元のねらい＞ ○元寇がユーラシアの変化の中で起こったことなど，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解させる。 ○南北朝の争乱の中で室町幕府が成立し，武家社会が次第に大きな力をもっていったこと，日明貿易で銅銭が大量にもたらされ，貨幣経済の発達を促したこと，琉球が日本，明や朝鮮，東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことに気付かせる。		**＜「武家政治の展開と東アジアの動き」を扱うこの単元の評価規準＞** ①元寇が国内に及ぼした影響，南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などをもとに，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②東アジアの交流に着目して，東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③武家政治の展開と東アジアの動きについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	**1 海を越えて迫る元軍** **◎蒙古襲来は，鎌倉幕府の政治にどのような影響を与えたのだろうか。** **歴史を探ろう** 東アジアに開かれた窓口　博多	蒙古襲来はどのような戦いで，幕府と御家人の関係にどのような影響を与えたのか，文章や絵画資料などから読み取ったり考えたりする。	・地図資料などをもとに，元軍は九州北部だけではなく，樺太（サハリン）や琉球，台湾にも襲来していること，高麗（朝鮮）の抵抗や大越（ベトナム）の粘り強い戦いが元軍の日本遠征を妨げる要員となったことに気付かせる。	①フビライ=ハンが中国北部を支配し，国号を元に変えたころから，３度目の日本への遠征を計画したころまでの流れを，年表の形式で適切にまとめ，理解している。 ①蒙古襲来の後，御家人の生活が苦しくなった ②蒙古襲来以後の幕府と御家人の関係の変化を考察し，御家人たちが鎌倉幕府に不満をもつようになった理由を「御恩」と「奉公」という言葉を用いて適切に表現している。
1年2学期	**2 南北朝の内乱と新たな幕府** **◎なぜ鎌倉幕府は行き詰まり，室町幕府が成立したのだろうか。**	鎌倉幕府はどのようにしてほろび，その後，政治はどのように変化していったのか，守護と守護大名の違いなどに着目し，資料などから読み取ったり考えたりする。	・鎌倉幕府を倒した勢力の柱とも言える後醍醐天皇による政治が短期間で崩壊した理由を，資料をもとにして考えさせる。 ・室町幕府の力が弱くなっていったことが，のちの戦国の動乱につながったことに気付かせる。	①鎌倉幕府の崩壊から建武の新政，室町幕府の成立にいたるまでの経緯を，勢力をもっていた人々の関係もふまえながら，流れ図などで適切にまとめ，理解している。 ①室町幕府が将軍の補佐役として管領をおき，有力な守護大名が任命されて政治が行われるようになると，どのような混乱が見られるようになったか，文章から適切に読み取って，理解している。 ②鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いについて考察し，勢力をもつようになった理由にふれながら，「軍事」「荘園」「国司」という３語を適切に用いて表現している。
1年2学期	**3 東アジアの交易と倭寇** **◎室町幕府は，東アジア諸国とどのような関係を築いたのだろうか。**	室町幕府は東アジア諸国とどのような関係を築いたのか，文章や地図などをもとにして，図を用いてまとめる。	・14世紀後半は，日本では南北朝の争乱があり，東アジアでは倭寇の活動がさかんになり，中国では元のあとに明が，朝鮮半島では高麗のあとに朝鮮が建国されるという激動の時期であったという共通点に気付かせる。 ・日明貿易によって大量の銅銭が輸入され，国内の貨幣経済の発達を促したことについては，次節の学習と関連させて気付かせる。	①日本（室町幕府）・明・高麗（朝鮮）・倭寇の関係を，政治的な要求や貿易品名（日本の輸入品としては生糸や絹織物，銅銭など）などの経済的な関係を含めて，図を用いて適切にまとめ，理解している。 ②明を中心とした東アジアの伝統的な国際関係に日本が組み込まれ，足利義満が明と勘合貿易を始めた理由を考察し，「朝貢」などの言葉を用いて適切に表現している。

1年2学期	**4 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易** **◎琉球王国やアイヌの人々は，周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。** **◇節の問いを振り返ろう◇** **東アジアとの交流がこの時代の日本にもたらした影響とは何か，政治と経済の面から説明してみよう。**	琉球王国やアイヌの人々は周辺諸国とどのような関係を築いていたのか，資料や地図などをもとにして，図を用いてまとめる。 ◇日本は，特に中国とどのような関係を築いたかに注目させる。	・前時の学習をより広い範囲で考え，深めていく時間であることに気付かせ，前時で作成した東アジアの関係図に，琉球王国やアイヌ文化圏を追加記入させる。 ◇なぜ朝貢という対等ではない外交関係を中国と結ぶことを幕府（足利義満）が選択したのか，経済的な面に着目して考えさせる。	①日本，明，高麗に琉球，アイヌ，シャムやマラッカなどを加えた関係図をまとめ（前時の図に書き加え），交易によって結びついていたこと，琉球も日本と同じように明との朝貢貿易を行っていたことを理解している。 ②琉球王国やアイヌの人々が力をつけた背景として共通している点，特に琉球王国が繁栄し，独自の文化を築くことができた理由（地理的な位置の条件を生かした中継貿易）を考察し，各地域との交易や交流にふれながら，適切に表現している。
第3節　人々の結び付きが強まる社会 **◇節の問い◇　武士や民衆はどのような結び付きの社会をつくっていったのだろうか。**		<「民衆の成長と新たな文化の形成」を扱うこの単元のねらい> ○農業など諸産業の発達や畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立が，当時の社会の大きな変化であることや，それにともなって商品流通が活発化したことに気付かせる． ○武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことを理解させ，この時代の文化の中に現代に結びつくものが見られることに気付かせる。 ○各地に戦乱が広まる中で戦国大名が登場し，自らの領国を支配して分国法を定めたり，城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことや，下剋上の風潮など，社会全体が大きく変化していったことに気付かせる。		**<「民衆の成長と新たな文化の形成」を扱うこの単元の評価規準>** ①農業など諸産業の発達，都市や農村における自治的なしくみの成立，多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などをもとに，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②農業や商工業の発達に着目して，民衆の成長が社会に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③民衆の成長と新たな文化の形成について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年3学期	**タイムトラベル⑥** **室町時代を眺めてみよう** 15世紀ごろのある場面	室町時代の港町のようすをえがいた想像図を見て，鎌倉時代と比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があったのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに，中世の社会が変化していることに気付かせ，「武器を持った人々は，集団で何を訴えようとしているのか」「武士以外のどのような人々が力をつけるようになったのか」などの追究課題を考えさせる。	①鎌倉時代の農村と室町時代の港町の共通点や違いについて，武器を持っている人々などに注目し，適切なことがらを読み取っている。 ②牛や馬が農作業や荷物の運搬に利用されていること，商品の売買に貨幣が使われていること，民衆が集団で訴えを起こしたり，茶や絵画などを楽しだりと民衆が力を持つようになっていることなど，鎌倉時代と室町時代の共通点や相違点を考察し，写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(37時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ①人々のヨコの結びつきを示す場面を適切に読み取っている。 ②『タイムトラベル⑤』なども参考にしながら，想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして，中世の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年2学期	**1 技術の発達とさまざまな職業** **◎鎌倉時代から室町時代にかけて，産業と交通はどのように発展していったのだろうか。**	鎌倉・室町時代において，産業と交通はどのように発達したのか，農業生産力向上のための工夫やさまざまな職業の登場，商業，運送業などの発達に着目させ，絵画資料などから読み取ってまとめる。	・導入で，定期市の様子を描いた絵巻物の一場面から読み取れる商品などを発表させる。 ・本文や資料で紹介されている職業が商業と工業（手工業）のどちらにあたるかを分類させる。	①絵画資料などで示されている職業を商業（売ったり運んだりする仕事）と工業（手工業）に分類し，適切にまとめ，理解している。 ②室町時代に職人の種類が飛躍的に増加した理由や，商業がさかんになった理由について考察し，農業生産力の向上や銅銭の大量輸入による貨幣経済の進展，交通の発達にふれながら，適切に表現している。
1年2学期	**2 団結して自立する民衆** **◎人々は，自分たちの目的を成し遂げるために，どのような行動を起こしたのだろうか。**	争いや戦乱が続くなかで，人々はどのような行動を起こしたのか，「自分たちの力」「利害」「結びつき」をキーワードにして，資料などからその具体例を見つけ出してまとめる。	・奈良時代などに負担に苦しんだ農民がとった行動をふりかえらせ，室町時代の「自力救済」（自分たちのことは，自分たちの力で解決するという考え方）が今までになかった行動であることに気付かせる。	①各地で起こった一揆のなかから，おもなものを地図や表などを用いて適切にまとめ，理解している。 ①村や都市でそれぞれどのような自治が行われていたのか，惣や寄合の具体的な運営の方法をふまえて理解している。 ②室町時代の武士や農民，都市の商工業者たちが，主従関係のような「タテのつながり」ではなく，「ヨコのつながり」によって実現しようとしたことを，一揆や惣，寄合のしくみや行動をもとに考察し，適切に表現している。
1年2学期	**3 全国に広がる下剋上** **◎応仁の乱をきっかけに，どのような人が力を付けて，社会は変わっていったのだろうか。**	応仁の乱をきっかけに，各地でどのような勢力が新たに力をつけたのか，地図などをもとに調べたりまとめたりする。	・身近な地域を支配した戦国大名や興味のある戦国大名がどのような人物で，どのような政策をとったか，調べさせる。 ・「けんかをした者は，いかなる理由によるものでも，処罰する」という喧嘩両成敗法を定めた戦国大名のねらい（自力救済の禁止と法による統制）を考えさせる。	①どのような人が戦国大名となったのか，戦国大名はどのような政策を実施したのか，戦国時代になって天皇や公家・大寺社の力が急速に弱まっていった理由（戦国大名に荘園を奪われたため）とは何かを理解している。 ②戦国大名と守護大名の違いをさまざまな角度から考察し，「領国」「荘園」「分国法」という語を用いて適切に表現している。
1年2学期	**4 庶民に広がる室町文化** **◎室町時代にはどのような特色を持った文化が展開したのだろうか。** **◇節の問いを振り返ろう◇** **室町時代の社会のしくみの特徴とは何か，「応仁の乱」，「戦国大名」，「自治」という言葉を使って説明してみよう。**	室町時代にはどのような特色をもった文化が展開したのか，文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇タテとヨコのつながりに注目させる。	・年中行事，衣服，食生活，住居などで現代につながる文化や生活様式ができたことに気付かせる。 ◇「下剋上の風潮」に着目して考えさせる。	①現代の家庭や地域で見られる文化や生活様式などが室町時代に生まれたことを理解し，「衣・食・住・その他」に分けた表を用いて適切にまとめ，理解している。 ①室町時代の社会のしくみの特徴を，応仁の乱後の政治や社会の動きをふまえて理解している。 ②幕府が鎌倉から京都に移ったことによる文化への影響について考察し，禅宗や大陸の影響を受けていた武家の文化と，京都の公家の文化がまじり合っていったことなどにふれながら，適切に表現している。
1年2学期	**章の学習を振り返ろう** **武家政権の成長と東アジア** **■章の問い■　人々がそれぞれに結び付きを強めていった目的は何か。**	中世までに登場した身分や職業を武士と庶民のまとまりに分けて，それぞれのタテとヨコの関係図をつくり，どのような結びつきがなぜ強められたかを考え，話し合う。 中世とはどのような時代か，自分の言葉で表現したり，意見交換を行ったりする。	・古代の身分との違いに着目すると，中世の特色を表現しやすくなることを助言する。 ・武士のまとまりは，鎌倉時代，室町時代，戦国時代の三つの時期に分けて考えさせる。 ・中世とはどのような時代か，まずは短い言葉で特色を表現させ，歴史的な見方・考え方（時代や年代，推移，比較，相互の関連）を働かせて，そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り，歴史的な見方・考え方を働かせて，中世の武士や庶民の関係図を効果的にまとめている。 ②武士や庶民のタテやヨコの関係に着目するなどして，中世の日本と世界を大観し，時代の特色を多面的・多角的に考察し，適切に表現している。 ③中世に強められた人々の結びつきについて，現代のあり方と比較するなどして，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第3章　近世　武家政権の展開と世界の動き ■章の問い■　全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。		**＜第2部第3章のねらい＞** ①ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつくられたことを理解させる。 ①江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。 ①産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。 ①社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。 ②交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ③近世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	**＜第2部第3章の評価規準＞** ①ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつくられたことを理解している。 ①江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ①産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ①社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 ②交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③近世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第1節　大航海によって結び付く世界 ◇節の問い◇　ヨーロッパの国々は，なぜ世界に進出したのだろうか。		＜「世界の動きと統一事業」を扱うこの単元のねらい＞ ○ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きにともなって，鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易がさかんになり，それらが日本の社会に影響を及ぼし，近世社会の基礎がつくられたことを理解させる。 ○新航路の開拓の背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結びつきに気付かせる。	**＜「世界の動きと統一事業」を扱うこの単元の評価規準＞** ①ヨーロッパ人来航の背景とその影響をもとに，近世社会の基礎がつくられたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②交易の広がりとその影響に着目して，アジアにヨーロッパが進出する中で，世界の交易の空間的な広がりが生み出され，日本とヨーロッパ諸国の接触が起こったことや，日本の政治や文化に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③世界の動きについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年3学期	**1 ヨーロッパの変革** ◎キリスト教に基づいたヨーロッパの文化や社会は，イスラム商人との交流により，どのように変化していったのだろうか。	イスラム勢力の広がりによって，キリスト教中心のヨーロッパはどのように変化したのか，十字軍やルネサンスをもとにして考える。	・ヨーロッパにおけるローマ教皇の権威の移り変わりに目を向けさせることで，歴史を大観するうえで欠かせない十字軍やルネサンス，宗教改革という重要な出来事があることに気付かせる。	①11世紀から16世紀にかけて起こったヨーロッパのおもな出来事や，イスラム商人を経てヨーロッパに伝わり，その後のヨーロッパの文化や科学・技術に大きな影響を与えたもの（天文学，羅針盤，火薬），ヨーロッパで発明されたり（活版印刷術），発達したりしたもの（新しい戦術や長距離の航海術）をいくつかあげて，表などで適切にまとめ，理解している。 ②16世紀にキリスト教のカトリック教会に見られた変化をもとに「信仰の見直し」について考察し，宗教改革が起こった理由やカトリック教会の中でも改革が進められた理由を適切に表現している。
1年3学期	**2 大航海時代の幕開け** ◎ヨーロッパの人々の進出によって，世界はどのように変化したのだろうか。	新航路を開拓したヨーロッパの国々によって，世界はどのように変化したのか，地図などの資料をもとに考え，ヨーロッパとアジアや南北アメリカとの関係を図でまとめる。	・アジアで交易が活発に行われていたことや，イスラム商人がアジアとヨーロッパを結びつける役割を果たしていたことに気付かせる。 ・南北アメリカ大陸の作物（じゃがいも，とうもろこし，トマト，かぼちゃなど）が世界に伝わったことにふれて，大航海時代の幕あけを「一つに結びつく世界」という視点から扱い，それまでの歴史との大きな違いに気付かせる。	①大航海時代におけるヨーロッパとアジア，南北アメリカとの関係を図に示して適切にまとめ，理解している。 ①スペイン人がアフリカの人々を奴隷としてアメリカに連れて行った理由について，アメリカで行われていた産業に注目して理解している。 ②ポルトガルやスペインがアジアを目指した理由について，交易（香辛料や絹織物を手に入れるため）と布教（キリスト教を広めるため）という２つの面から考察し，適切に表現している。 ②ヨーロッパによる新航路の開拓がアフリカやアメリカ，アジアに与えた影響についてさまざまな面から考察し，適切に表現している。
1年3学期	**3 東アジアの貿易と南蛮人** ◎ヨーロッパの海外進出によって，日本の社会はどのような影響を受けたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ヨーロッパの国々が進出した地域では，どのような変化が起こったのか，「貿易」と「キリスト教」という言葉を使って説明してみよう。	ヨーロッパとの貿易や交流は，戦国時代の日本にどのような影響を与えたのか，鉄砲とキリスト教に着目して考える。 ◇各地域の経済と文化がどのように変化したかを確認させる。	・琉球の貿易船が活躍する東アジア，東南アジアの中継貿易に，ポルトガルやスペイン，オランダが加わるという図式で理解させる。 ◇前時の学習と日本での変化もふまえ，日本独自の動きに着目して考えさせる。	①鉄砲が日本に受け入れられて全国に普及していった経緯や，南蛮貿易がさかんになっていったことについて理解している。 ②キリシタンが増加した理由と，キリシタン大名になる者がいた理由について，当時の社会の具体的な状況にもとづいて考察し，「鉄砲」という語も用いて適切に表現している。
第2節　戦乱から全国統一へ ◇節の問い◇　全国統一が進むなかで社会はどのように変化したのだろう。		＜「世界の動きと統一事業」を扱うこの単元のねらい＞ ○織田信長が行った仏教勢力への圧迫や関所の撤廃，豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって，中世の大きな勢力が力を失ったことや，中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気付かせる。 ○当時の対外関係として，東南アジアなどとの積極的な貿易，キリスト教への対応，朝鮮への出兵などがあったことを取り上げる。 ○南蛮文化が取り入れられる一方，生活に根ざした文化が広がり，武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華・華麗な文化が生み出されたことに気付かせる。	**＜「世界の動きと統一事業」を扱うこの単元の評価規準＞** ①織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに，近世社会の基礎がつくられたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して，中世社会から近世社会への変化が生み出され，日本の政治や文化に与えた影響を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③統一事業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年3学期	**タイムトラベル⑦** **安土桃山時代を眺めてみよう** 16世紀ごろのある場面	安土桃山時代の町づくりが行われているようすをえがいた想像図を見て，鎌倉・室町時代と比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があったのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・中世と近世という時代を大きくとらえさせるために，鎌倉時代の農村をようすをえがいた『タイムトラベル⑤』との比較も行う。 ・「僧侶が武器を持っていたのはなぜか」「巨大な石はどこからどのような工夫をして運ばれてきたのか」「なぜ新しい升が必要なのか」「人々の身分はどのように変化したのか」などの追究課題が考えられる。	①小学校の学習をふまえて，鎌倉・室町時代と安土桃山時代の共通点や違いについて，武器を持っている人々などに注目し，適切なことがらを読み取っている。 ②交易だけなく，キリスト教の布教など文化的な交流も行われていたこと，刀狩や検地によって，武士の政権による統制が広く人々の生活に影響を与えていることなど，鎌倉・室町時代と安土桃山時代の共通点や相違点を考察し，写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(58時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ②『タイムトラベル⑧』なども参考にしながら，想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして，近世の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。

1年3学期	**1 信長・秀吉による全国統一** **◎戦国大名は，どのようにして全国統一を進めたのだろうか。**	織田信長は，どのようにして全国を統一していったのか，絵画資料や地図，法令などの資料をもとに読み取る。	・小学校の学習をふまえて，戦乱に勝利したことは導入で短時間で確認し，経済に関する政策など，中世社会とは異なる新しい社会が生まれることになる具体的な変化に注目させる。	①戦国時代はどのようにして終わったのか，織田信長と豊臣秀吉が全国統一を果たしていった経緯をもとに理解している。 ②織田信長の政策が日本の社会をどのように変えたかについて，政治面，社会面，経済面のそれぞれから具体的な事例（足利義昭を京都から追放して室町幕府を滅亡させたこと，敵対する仏教勢力に対抗し，貿易の利益を得るためにキリスト教を保護したこと，関所を廃止したり，楽市・楽座を行ったりしたこと）をもとに考察し，中世社会と異なっていることを適切に表現している。
1年3学期	**2 秀吉が導いた近世社会** **◎秀吉は，国内と海外に対してどのような政策を行ったのだろうか。**	豊臣秀吉が国内と海外に対して行った政策は，どのような影響を残したのか，絵画資料や地図，法令などの資料をもとに考える。	・検地と刀狩によって社会はどのように変化したかを考えさせる。 ・対外政策では，キリスト教への対応や朝鮮出兵に注目させる。	①秀吉による朝鮮出兵が，朝鮮各地の人々はもちろん，日本の武士や民衆にも多くの犠牲や負担を強いたことで，豊臣氏の支配が弱まる原因となったことを理解している。 ②検地と刀狩によって社会がどのように変化したかを考察し，中世までとは異なる社会（農民らが武装して自らの力で紛争を解決することが否定されたこと，石高に応じた年貢を納めることを義務づけられたこと，身分制に基づく社会の土台がつくられたこと）がつくられたことを，「兵農分離」という語を用いて適切に表現している。 ②豊臣秀吉がキリスト教を禁止した理由と，それが徹底できなかった理由について，ポルトガルやスペインによる布教や海外貿易の目的などの面から考察し，適切に表現している。
1年3学期	**3 戦国大名と豪商が担った桃山文化** **◎安土桃山時代には，どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。** **◇節の問いを振り返ろう◇** **信長と秀吉による全国統一政策により，日本の社会はどのように変わったか，中世の社会の特色と比較して説明しよう。**	織田信長や豊臣秀吉が登場した時代には，どのような特色をもった文化が展開したのか，文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇人々の生活や経済の変化に注目させる。	・戦いの拠点だった城の変化（山城から平山城，平城へ）に注目させ，城に残された文化財とその特徴を考えさせる。 ◇前時までの学習をふまえ，文化の面など中世社会からの変化に着目して考えさせる。	①織田信長や豊臣秀吉が支配したころ（安土桃山時代）に海外から伝わった技術や文化（鉄砲，天文学，航海術，医学，活版印刷技術，陶磁器づくりの技術など）を三つ以上あげて，表を用いてその特徴を適切にまとめ，理解している。 ②安土桃山文化が壮大で豪華な文化であった理由を，時代の変化や文化の担い手（新しい時代を切り拓いた気風や経済力をもった戦国大名や豪商）などに着目して考察し，適切に表現している。
第3節　武士による全国支配の完成 **◇節の問い◇　江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろう。**		＜「江戸幕府の成立と対外関係」を扱うこの単元のねらい＞ ○江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど，中世から近世への転換のようすを，中世の武家政治との違いに着目して考察させ，自分の言葉で表現させる。 ○江戸幕府の成立と大名統制については，幕府が大名を統制するとともに，その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付かせる。		**＜「江戸幕府の成立と対外関係」を扱うこの単元の評価規準＞** ①江戸幕府の成立と大名統制，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに，幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して，江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ，安定した社会が構築されたことを考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③江戸幕府の成立と対外関係について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年3学期	**1 幕藩体制の始まり** **◎江戸幕府は大名や朝廷を統制するために，どのようなしくみをつくったのだろうか。**	江戸幕府は大名や朝廷を統制するために，どのようなしくみをつくったのか，文章や資料から読み取る。	・大名配置図から，幕府が親藩・譜代大名・外様大名をどのように配置したかを読み取らせ，そのねらいを考えさせる。 ・参勤交代は，藩から江戸まで移動するのにかかる人件費などだけでなく，江戸で生活するための費用の負担が重かったことにも気付かせる。	①江戸幕府が大名や朝廷を統制するために行ったおもな政策（武家諸法度や禁中並公家諸法度の制定，参勤交代制度の整備，御手伝普請，京都所司代の設置）を三つあげ，それぞれのねらいと効果にもふれながら，適切にまとめ，理解している。 ②幕藩体制とはどのような体制か，武家諸法度などに基づく将軍と大名の関係や，幕府が藩に独自の統治を認めたことなどをふまえてさまざまな面から考察し，適切に表現している。
1年3学期	**2 朱印船貿易から貿易統制へ** **◎江戸幕府は，盛んになっていた貿易やキリスト教の布教に，どのように対処していったのだろうか。**	江戸幕府の外交・貿易政策は，国内政策との関係で，どのように変化したのか，年表などから読み取ったり考えたりする。	・ポルトガル船の来航を禁止できたのは，オランダによるアジアでの貿易が活発になり，ポルトガルにたよらなくても利益が上げられるようになったことが背景にあることも予想させられるとよい。	①キリスト教の禁止と貿易統制までの流れについて，教科書の年表や本文からおもなことがらを読み取り，流れ図などで適切にまとめ，理解している。 ②大きな利益が得られる朱印船貿易が停止された理由を，キリスト教の禁止の徹底などの面から考察し，適切に表現している。
1年3学期	**3 四つに絞られた貿易の窓口** **◎幕府は，貿易についてどのような政策をとり，どこを窓口としたのだろうか。**	幕府は，四つの窓口を通して世界とどのようにつながっていたのか，地図でそれぞれの窓口を確認しながらまとめる。	・次時の学習と合わせて，「四つの窓口」の場所，貿易を行っていた藩，貿易の相手，おもな貿易品がまとめられるような表または図をつくらせる。	①貿易の四つの窓口を表や図でまとめ，オランダと清，朝鮮，蝦夷地への窓口の場所と貿易などの関係を理解している。 ②日本と貿易するヨーロッパの国がオランダだけとなった理由を，キリスト教の禁止の面から考察し，適切に表現している。 ②幕府が世界とつながる窓口を限定したことにはどのような利点があるかを考察し，利益や情報の独占という点に注目して，適切に表現している。
1年3学期	**4 琉球王国とアイヌの人々への支配** **◎琉球王国とアイヌの人々は，薩摩藩や松前藩とどのような関係にあっただろうか。** **◇節の問いを振り返ろう◇** **江戸幕府が安定した全国支配ができた理由を，統治のしくみと関係させて説明してみよう。** **歴史を探ろう** 琉球とアイヌの人々の暮らし	琉球王国とアイヌの人々は，薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのか，絵画資料などから読み取り，江戸時代になってどのように変化したのかを説明する。 ◇江戸幕府が行った国内と国外の政策をそれぞれ確認させる。	・琉球とアイヌの人々の独自の文化に気付かせる。 ・昆布や蝦夷錦が伝わった経路などを確認させ，琉球とアイヌの人々が，東アジア一帯の交易ネットワークで大きな役割を担っていたことに気付かせる。 ◇外国や琉球とアイヌの人々とどのような関係をもったのかに着目して考えさせる。	①琉球王国と薩摩藩，アイヌの人々と松前藩の交易品を，図を用いて適切にまとめ，理解している。 ②琉球王国とアイヌの人々の生活が，江戸時代になってどのように変化したのか，薩摩藩や松前藩との関係にふれながら考察し，適切に表現している。
第4節　天下泰平の世の中 **◇節の問い◇　江戸時代の社会は，どのような社会だったのだろうか。**		＜「産業の発達と町人文化」などを扱うこの単元のねらい＞ ○身分制のもとで，人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしたこと，農村が幕府や藩の経済を支えていたことなどに気付かせる。 ○農林水産業や手工業，商業などの産業や河川・海上交通，街道が発達したことについて，身近な地域の特徴を生かした事例を選んで理解させる。 ○藩校や寺子屋などの普及に着目して，人々の教育への関心の高まりに気付かせるとともに，学問・芸術・芸能などの地域的な広まりに着目して，文化の社会的な基盤が拡大したことを理解させる。 ○近世の文化について，大阪・京都・江戸などの都市を舞台に，経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解させる。		**＜「産業の発達と町人文化」などを扱うこの単元の評価規準＞** ①身分制と農村のようすをもとに，幕府と藩による支配が確立したこと，産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりをもとに，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して，江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ，都市や農村における生活や変化し，安定した社会が構築されたことを考察したり，産業の発達と文化の担い手の変化に着目して，都市を中心とした経済が形成されていく中で，日本の文化の空間的な広がりが生み出され，それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや，生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴を考察したりするなど，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③産業の発達と町人文化などについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

1年3学期	**タイムトラベル⑧** **江戸時代を眺めてみよう** 17～18世紀ごろのある場面	江戸時代のある街道沿いの農村のようすをえがいた想像図を見て，安土桃山時代と比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があったのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他，武士の屋敷の周辺の様子に注目させ，平安時代の貴族の屋敷との共通点（農地に囲まれていること）にも気付かせる。 ・「武士の屋敷に運ばれる品物はどこから来るのか」「武士の屋敷で子どもが読んでいる本はどんな内容なのか」「僧侶はどんな教えを説いているのか」「神社をつくったのはだれか」などの追究課題が考えられる。	①江戸時代と安土桃山時代の農村の違いについて，田畑のようすや人々の役割などに注目し，適切なことがらを読み取っている。 ②碁盤目状の道路という平城京や平安京などの都に共通する特色，日本風で色彩が豊かになっている貴族などの服装の変化など，奈良時代と平安時代の共通点や相違点を考察し，写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(58時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ①百姓の成長を示していると考えられる場面を適切に読み取っている。 ②『タイムトラベル⑦』なども参考にしながら，想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして，近世の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年3学期	**1 身分制の下での暮らし** ◎江戸時代の身分制とは，どのようなしくみなのだろうか。	江戸時代の人々は，身分制社会の下でどのような暮らしをしていたのか，文章や資料などから読み取ってまとめる。	・身分上の差別は非合理なものであり，支配者に都合よく利用されたものであることに気付かせる。また，身分間の違いだけでなく，同じ身分の中にも大きな格差があったことにも気付かせる。 ・朱子学の考え方のもとで，男尊女卑の風潮が社会に根づいていったことに気付かせる。	①武士，百姓，町人の暮らし，自治に携わった役職，権利などについて，表などで適切にまとめ，理解している。 ①朱子学とはどのような考えを基本とするもので，徳川綱吉がなぜこれを重視したのかを，綱吉がめざした政治（武力ではなく学問や礼節を重んじる文治政治）との関係から理解している。 ②江戸幕府の政治が文治政治へと転換した理由とその影響について，社会の変化に着目して考察し，適切に表現している。
1年3学期	**2 安定する社会と諸産業の発達** ◎江戸時代の国内産業は，どのように発達していったのだろうか。	江戸時代の国内産業は，どのように発達していったのか，絵画資料や地図などから読み取ってまとめる。	・身近な地域で行われた新田開発や代表的な特産物を取りあげ，関心を高めさせる。	①幕府・大名や農民が米の生産量を増やすために行ったこと（新田開発，効率のよい農具の使用や栄養価の高い肥料の使用など）を，適切に読み取り，理解している。 ②江戸時代に各地で特産物の生産がさかんになった理由について，貿易統制と関連づけて考察し，日用品の国産化の動きなどについて適切に表現している。
1年3学期	**3 各地を結ぶ陸の道・海の道** ◎交通網の整備は，都市や産業の発達にどのような影響を与えただろうか。 **歴史を探ろう** 昆布ロードと北前船	交通網の整備は，都市や産業の発達にどのような影響を与えたのか，三都を中心とした都市の成長などをふまえながら考える。	・陸路の街道に橋がかけられていなかったことなどから，商品の輸送に陸上交通は不向きであること，船の輸送は海上だけでなく河川も使われていたことに気付かせる。 ・経済面で武士を圧倒する商人が現れた理由を考えさせる。	①江戸時代のおもな街道と航路の名称とルート，「三都」の名称とそれぞれの特色を理解している。 ②大阪が商業の中心として発達した理由を，交通網の整備や江戸との関係，諸藩の蔵屋敷がおかれたことなどにふれて考察し，適切に表現している。
1年3学期	**4 上方で栄えた町人の元禄文化** ◎江戸時代前半にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 社会が安定した結果，人々の生活や産業はどのように変化したか，説明する。	江戸時代前半にはどのような特色をもった文化が展開したのか，文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇産業の発達と都市の繁栄が与えた影響を確認させる。	・現代に続く年中行事が生まれた背景に気付かせるとともに，身近な地域で行われている年中行事の起源や行事の具体的な内容を調べさせる。 ◇文化の担い手に着目させる。	①江戸時代前半のころに庶民が親しんだ文化を二つ以上あげ，それぞれ表などで適切にまとめ，理解している。 ②上方の町人が文化の担い手になった理由を，商業の発達や都市の繁栄などの面から考察し，適切に表現している。
第5節　社会の変化と幕府の対策 ◇節の問い◇　なぜ幕府は改革が必要だったのだろうか。		＜「幕府の政治の展開」を扱うこの単元のねらい＞ ○貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などをふまえ，近世社会の基礎が動揺していったことに気付かせる。 ○外国船の接近とそれに対応した幕府による北方の調査や打払令などを取り上げる。 ○財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革を取り上げ，百姓一揆などに結びつく農村の変化や商業の発達などへの対応というねらいがあったことに気付かせる。 ○蘭学や国学などの中に新しい時代を切り開く動きがみられたことに気付かせる。		**＜「幕府の政治の展開」を扱うこの単元の評価規準＞** ①社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどをもとに，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②社会の変化と幕府の政策の変化に着目して，貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され，それらの背景として百姓一揆がおこったことや，社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③幕府政治の展開について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年3学期	**1 貨幣経済の広まり** ◎徳川吉宗はどのような改革を行ったのだろうか。	徳川吉宗はどのような改革を行ったのか，また，貨幣を使う機会が増え，農村ではどのような変化があったのか，文章やグラフなどの資料から読み取ったり，考えたりする。	・商業や手工業の発達が，農民の生活をどのように変えたか，農民の収入や支出の品目など具体的な生活をイメージさせながら考えさせる。	①徳川吉宗が財政の立て直しのために行った政策を文章から読み取り，成果や課題についても表などで適切にまとめ，理解している。 ②農村において格差が生まれるなどの変化が見られるようになった理由を，商品作物の生産がさかんになったことをふまえて考察し，「商品作物」「貨幣」の語を用いて適切に表現している。
1年3学期	**2 繰り返される要求と改革** ◎百姓の要求と財政難に対して，幕府はどのような対応を行ったのだろうか。	百姓の要求と財政難に対して，幕府はどのような対応を行ったのか，田沼意次と松平定信の政策のちがいに着目させて，表にまとめる。	・財政再建策を大きく二つに分けると，収入増と支出削減を進める方法があることに気付かせ，さまざまな政策はどちらにかかわりが深いかを考えながらまとめさせる。	①百姓一揆や打ちこわしがどのようなことを背景として起こり，何を要求した運動だったのかを理解している。 ②田沼意次と松平定信の政策の違いについて，田沼意次は商品の流通や生産活動から得られる利益を重視し，一方の松平定信は農村の立て直しを重視したことなどに着目して考察し，適切に表現している。
1年3学期	**3 江戸の庶民が担った化政文化** ◎江戸時代後半には，どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 江戸時代後期に行われた幕府の諸改革は，どのような結果であったか，社会の変化と関連づけてそれぞれ説明してみよう。 **歴史を探ろう** 世界有数の百万都市 江戸	江戸時代後半には，どのような特色をもった文化が展開したのか，文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇幕府の改革はどのような内容だったか，確認させる。	・文化の中心が上方から江戸に移ったことに気付かせ，その理由を考えさせる。 ・庶民の教育がさかんになり，高い識字率を実現したことが，その後の近代産業が発展する原因の一つになったことに気付かせる。 ◇「質素や倹約」がねらい通りにいかなかったことに着目して考えさせる。	①小学校の学習をふまえて，国学や蘭学など，新しい学問の発達が社会に与えた影響について，表などで適切にまとめ，理解している。 ①幕末には文字を読める人の割合が高かった理由を，寺子屋などの普及をもとに理解している。 ②印刷技術が人々に与えた影響について，浮世絵の流行や地方にも文化が伝わったことなどに着目して考察し，適切に表現している。
1年3学期	**多面的・多角的に考えてみよう** 赤穂事件を考察する ー旧赤穂藩の浪士たちの処罰の行方	赤穂事件の概要と武家諸法度の方針が変更されていたことをふまえ，主君の仇討ちを果たした赤穂浪士を「忠義の義士」として許すか，「徒党」を組んだ罪で厳罰にするべきかを考える。	・助命する意見と厳罰にする意見とその根拠を整理し，当時の江戸の人々が赤穂浪士をたたえた理由を自分なりに考えた上で，将軍としてどのような判断を下すか考え，当時の資料に基づいた判断の根拠を明確にして説明する。 ・処罰には「打ち首」と「切腹」という方法があったことに気付かせる。	①資料をもとにして，旧赤穂藩の浪士たちが仇討ちを実行した理由や経緯，幕府が赤穂浪士に対して「切腹」という処罰を決定した理由を理解している。 ②赤穂浪士を助命すべきという主張と処罰すべきという主張の根拠をふまえ，当時の資料に基づいて将軍としてどのような判断を下すべきか考察し，根拠を明確にして適切に説明している。

１年３学期	**章の学習を振り返ろう** **武家政権の展開と世界の動き** **■章の問い■　全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。**	全国を統一するために織田・豊臣・江戸幕府が行った政策で共通する点に着目し，安定した政権が成立するために必要なことを考えて発表し，意見交換を行う。 近世とはどのような時代か，自分の言葉で表現したり，意見交換を行ったりする。	・中世の幕府政治との違い（比較），全国を統一するしくみの展開（推移），安定した支配と外国との関係を歴史的な見方・考え方として働かせるようにする。 ・政治が行きづまりを見せた理由にも着目させる。 ・近世とはどのような時代か，まずは短い言葉で特色を表現させ，歴史的な見方・考え方（時代や年代，推移，比較，相互の関連）を働かせて，そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り，歴史的な見方・考え方を働かせて，安定した政権が成立するために必要なことを効果的にまとめている。 ②安定した政権が成立する条件に着目するなどして，近世の日本を大観し，時代の特色を多面的・多角的に考察し，適切に表現している。 ③近世の安定した政権に見られた諸問題について，現代のあり方と比較するなどして，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。